

特定非営利活動法人



NPO法人サンカクシャ活動紹介

代表理事 荒井 佑介





若者が安心して生き抜いていける社会をつくる

名称 特定非営利活動法人サンカクシヤ

設立 2019年5月24日

所在地 東京都豊島区上池袋4-35-12

代表者 代表理事 荒井佑介

活動内容 親を頼れない15歳から25歳くらいまでの若者
520名(実数)をサポート

従業員 32名(業務委託含む)

予算規模 2023年度 経常収益87,002,507円
2023年度 経常費用83,416,566円



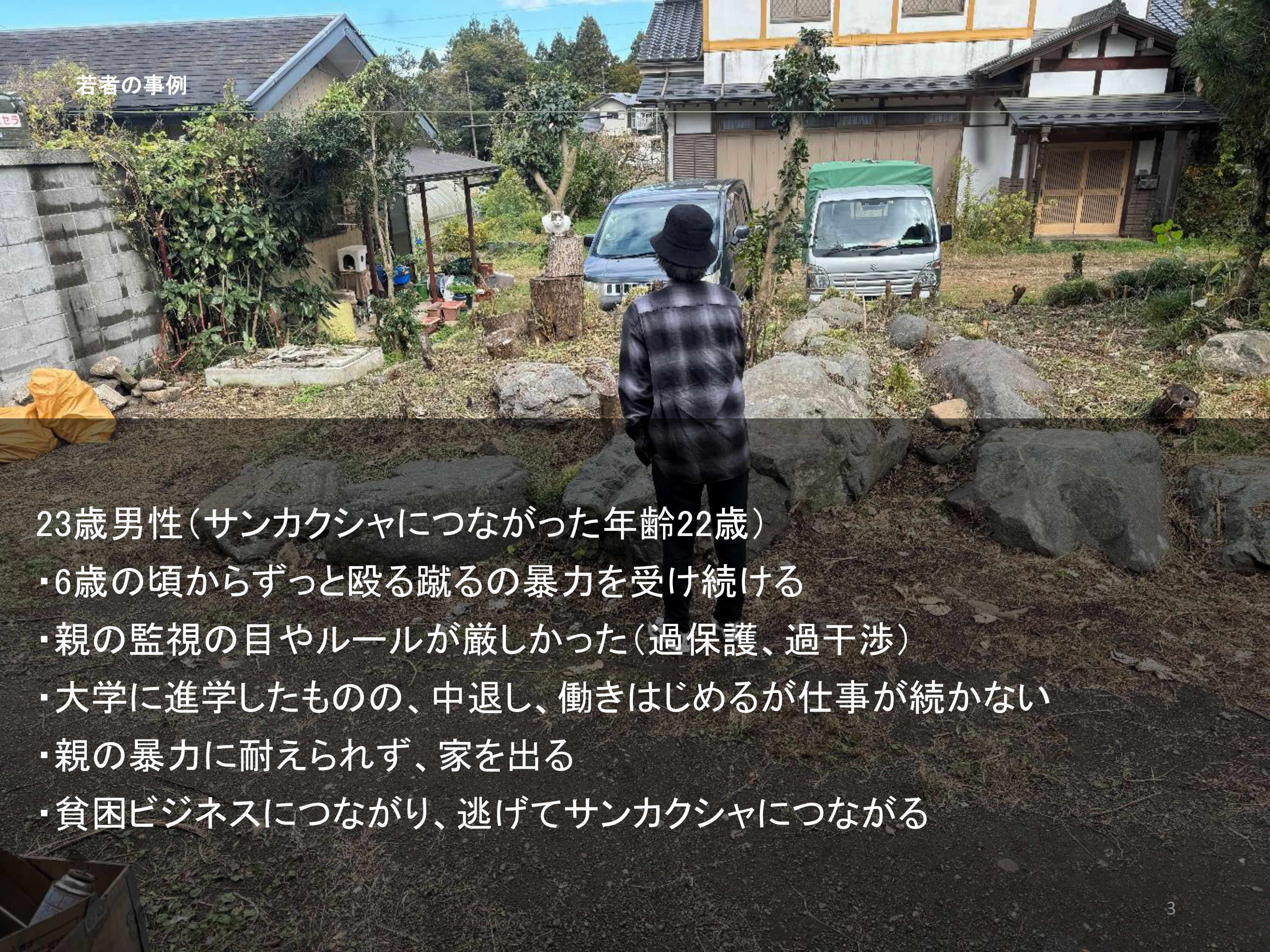
居場所



仕事



住まい

- 
- 23歳男性（サンカクシャにつながった年齢22歳）
- ・6歳の頃からずっと殴る蹴るの暴力を受け続ける
 - ・親の監視の目やルールが厳しかった（過保護、過干渉）
 - ・大学に進学したものの、中退し、働きはじめるが仕事が続かない
 - ・親の暴力に耐えられず、家を出る
 - ・貧困ビジネスにつながり、逃げてサンカクシャにつながる

■ 若者を取り巻く環境

家庭

核家族世帯の比率: 54.2% (R3)
単独世帯の比率: 38.1% (R3)

約4割が単身世帯

年間219,170件 (R4)

虐待相談対応件数が過去最多

学校

小中学生346,482人 (R5)

不登校人数過去最多

職場

非正規雇用の比率
1984年15.9% → 2022年36.9%

非正規雇用の割合増加

**70万人を超える
若年無業者**

家庭も学校も職場も居場所がないと回答する若者1.9% (推計22万人)

※令和4年版子供・若者白書子供・若者インデックスボード ver.4.0

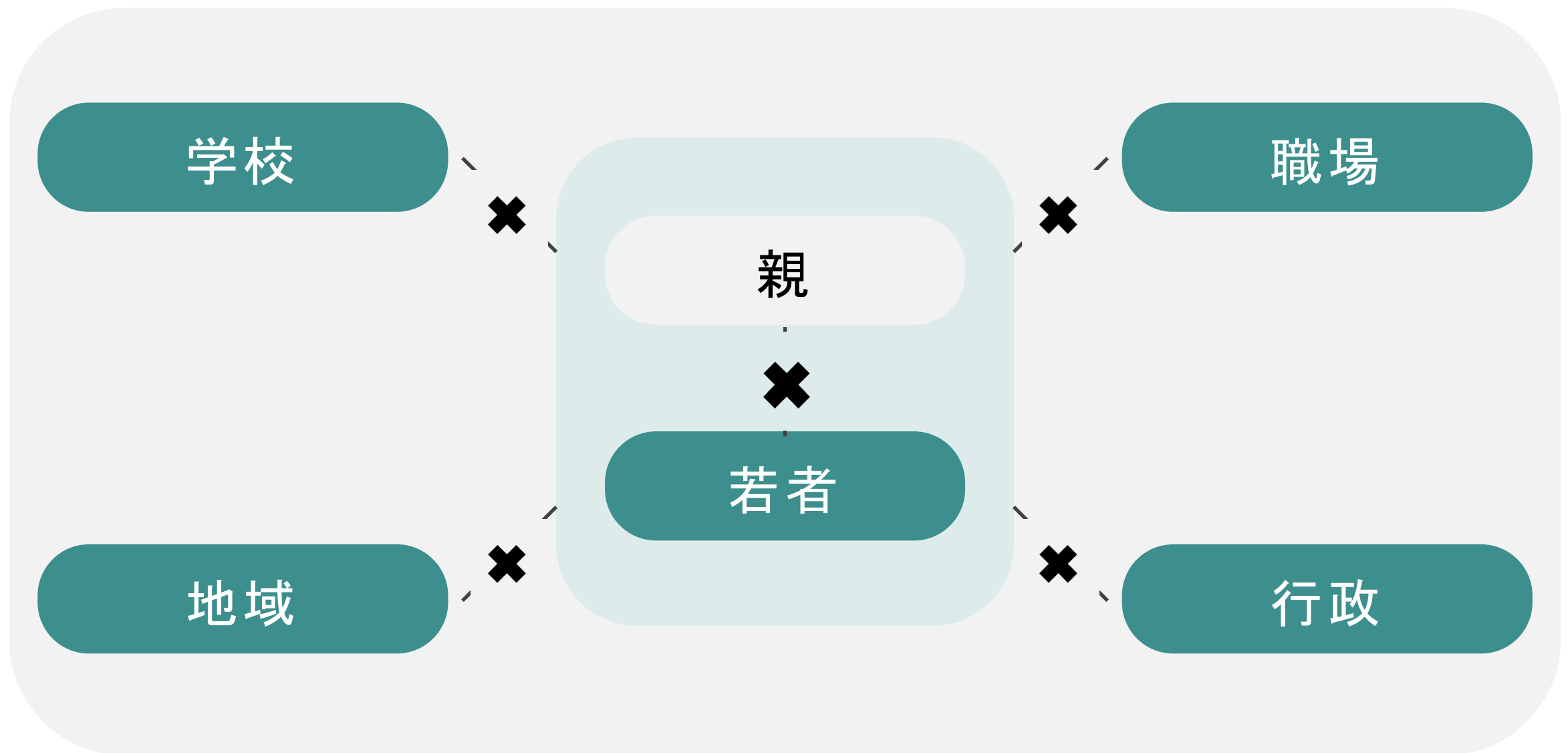
15歳から24歳人口は令和5年総務省統計局人口推計を参照

どこにも居場所がない若者1.9% (2022年) R5年15歳から24歳までの人口約1,170万人

若者を支える環境

・地域のつながりの希薄化 ・公的支援、民間支援の不足

■ 親を頼れない若者の孤立



親を頼れないと、頼れる大人がいない

■ 親を頼れない若者の特徴



人と関わるのが怖くなる



何かに取り組む意欲がなくなる

孤立

犯罪の被害・加害

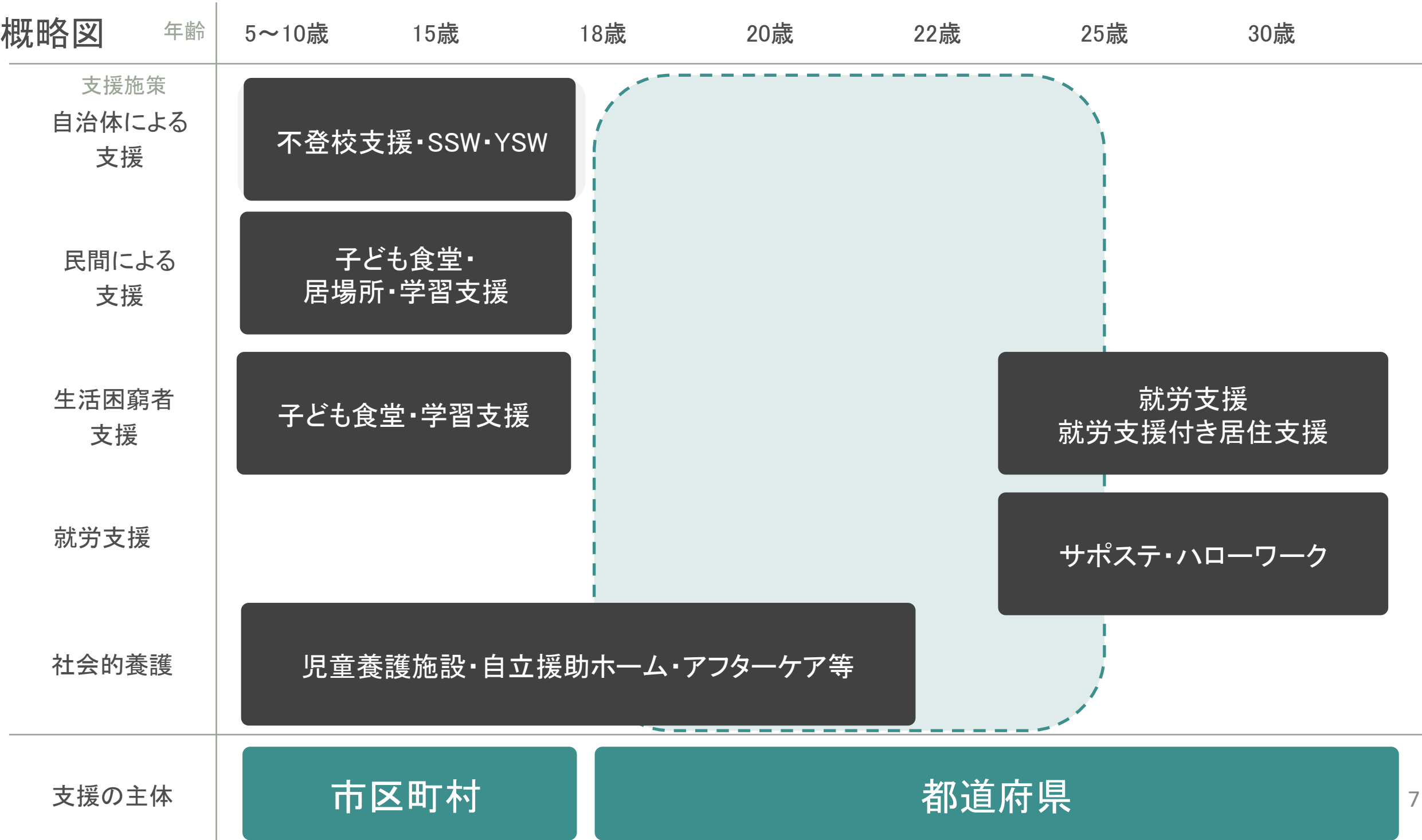
自身への諦め

回復に時間がかかるため、「自立」の準備段階の支援が必要

■ 若者の公的支援の不足

POINT

- ・18歳から25歳くらいまでの支援が手薄になっている
- ・主体が変わることで支援が途切れる



■ 公的支援の不足が生む課題

若者が生活や住まいに困る



公的支援の情報に抵抗感を示す



SNSで情報を調べる



若者を搾取したい業者が積極的に
SNSを活用



「闇バイト」などにつながる

居場所事業

サリハキヤ

- ✓ 豊島区上池袋4丁目
- ✓ 毎週火曜・水曜・木曜・土曜日14時～21時まで
- ✓ 月2回深夜帯の居場所も開放
- ✓ イケア・ジャパンより内装の提案と家具の寄贈
- ✓ 年間のべ2,973名が利用(実数165名)

■ ゲームを活用した若者支援

- ✓ サンカクキチ内にゲーミングPCを8台設置
- ✓ 株式会社サイコム様よりPC8台無償提供
- ✓ オンラインゲームでの相談支援の実施

居住支援事業



- ✓ シェアハウス4拠点・個室7部屋、合計26部屋提供
- ✓ 月3.5万円の家賃、最長1年半まで滞在可能
- ✓ 稼働率96%、相談が多く、常に満室状態
- ✓ これまでに86名に住まいを提供

居住支援



- ✓ 様々な体験をすることで、意欲が回復する
- ✓ バンジージャンプ、卓球、フットサル様々なアクティビティを若者と一緒に体験する
- ✓ 車であちこち出かけることも









社会サンカク事業



働く自信がない若者に仕事の体験の機会を提供

- ✓ 年間実施240回、利用者数75人
- ✓ 地元企業・大手企業80社と連携
- ✓ 企業が「仕事」を寄付
- ✓ サンカクシャのつながりで就職先が見つかる
- ✓ 2025年7月に仕事のサポートの拠点を開設

■ 仕事のサポートに特化した拠点の立ち上げ

豊島区・URとの連携を通じて、
空き家を活用した若者の就労施設を2025年夏に開設予定



3者が連携することで、

- ・活動の場が必要なNPO法人の課題
- ・若者の居場所の創出が必要な豊島区の課題、
- ・まちづくりの進むエリアでの空家・空地対策のURの課題

それぞれの課題を解決することを目指す

所在地： 豊島区上池袋4-29-4

土地面積： 1,209.94㎡

建物面積： 91.08㎡

建物概要： H20年築、木造2階建

貸付開始日 2025年4月1日(火)以降
： ※修繕期間を含む



■ 仕事のサポートに特化した拠点の立ち上げ



豊島区・URとの連携を通じて、
空き家を活用した若者の就労施設を2025年夏に開設予定

■ 若者支援の5つのステップ

安心

意欲

自信

支援
内容

居場所



住まい



体験活動



就労体験・就労支援



支援
期間

1年

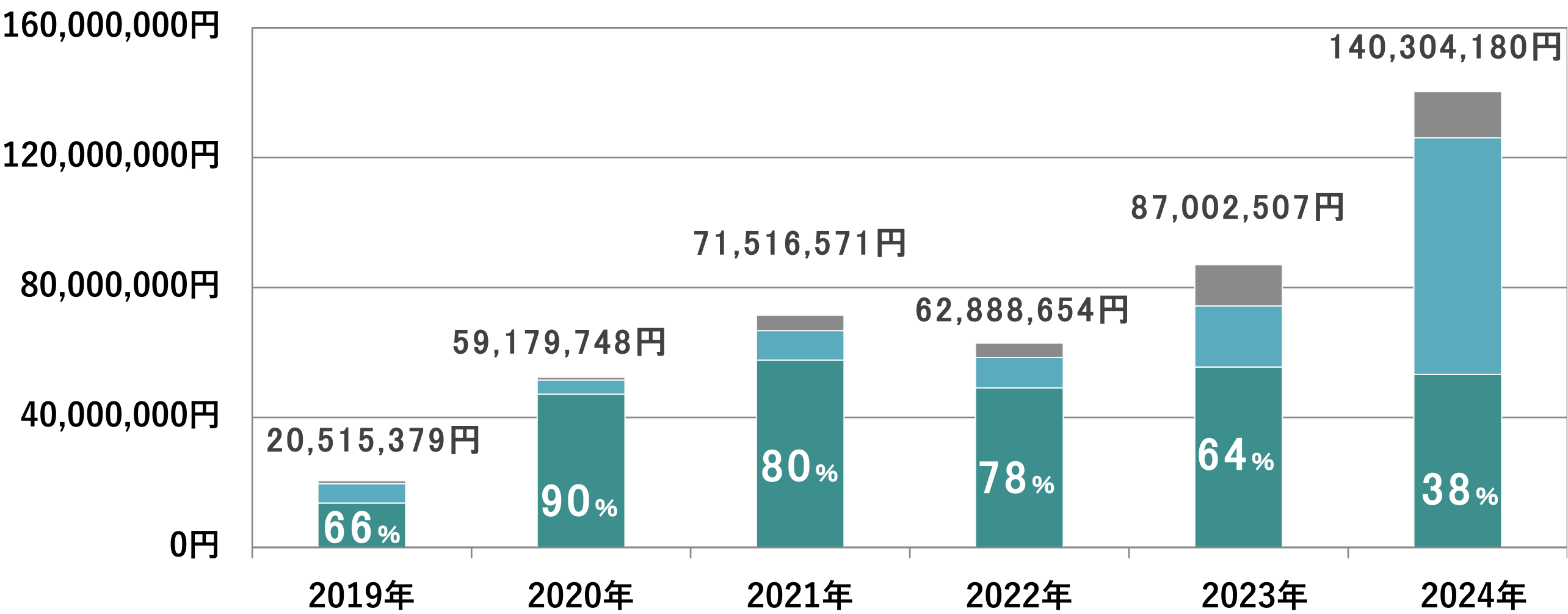
1年

1年

1人が自立するのに3年間の伴走支援が必要
(支援コストは1人あたり3年間で352万円)

活動予算

単年度の助成金が主な財源となっていたが、
 広報ファンドレイズの強化により徐々に寄付等が集まりはじめている



助成金	13,664,942円	47,185,600円	57,674,100円	49,124,580円	55,517,097円	53,234,615円
寄付金	5,918,486円	4,324,151円	9,069,341円	9,353,717円	18,885,431円	72,930,707円
事業収入等	931,951円	820,997円	4,773,130円	4,410,357円	12,599,979円	14,138,858円